

3 お茶の種類 [文化] (74 words)

However, / all tea, / **no matter what** its color or **taste**, / comes from the same plant.

逆接 S V

☑ 内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. Japanese people have enjoyed green tea for a long time. ()
2. Green tea and other types of tea come from different kinds of plants. ()
3. Different ways of processing tea leaves produce different tastes and colors. ()

❖ 覚えておきたい表現

■ because of ~ 「～が原因で」

ℓ.2: **Because of** this 「このため」: this は前文の内容「緑茶には、日本における長い歴史と、日本文化との強い結びつきがある」を受ける。because の後ろには節がくる (**because + S' + V'**) が, because of の後ろには名詞がくる (**because of + 名詞**) ので注意。

Ex. I like him **because** he is honest. 「私は、彼が正直だから好きだ。」

I like him **because of** his honesty. 「私は、彼の正直さのために彼が好きだ。」

■ one ... 「(一般に) 人は…」

ℓ.2: **one** might think that green tea comes from a plant unique to Japan 「緑茶は日本に特有の植物から作られていると思う人がいるかもしれない」

・one might think that ... 「人は…と思うのかもしれない」: 「(一般的な) 人」を表すのは you や we だけでなく, one も可能。

Ex. **One** should not speak ill of others. 「(人は) 他人の悪口を言わない方がいい。」

■ no matter what S (may) be 「S がどんなものであっても」

ℓ.3: **no matter what** its color or taste (may be) 「その色あるいは味がどんなものであっても」: この節では may be, または is が省略されている。(may) be の補語は what である。また, no matter what は whatever でも言い換えられる。

Ex. We will welcome your husband, **no matter what** his nationality **is**. 「どこの国の人だろうと、あなたの旦那さんを私たちは歓迎しますよ。」

■ way of ...ing 「…の仕方」

ℓ.6: They are, in fact, the result of different **ways of growing** the tea and **treating** it 「それらは、実際のところ、お茶を育て、それを処理する、さまざまに異なる方法の結果なのである」

Ex. We should change our **way of living** now. 「今こそ私たちの暮らし方を変えるべきです。」

・They が受けているのは the differences 「(味や色の) 違い」である。

整理しよう! *段落要旨・構造*

・緑茶は日本文化と密接な結びつきがある。

⇒このため緑茶は日本独特の植物から作られるのかと誤解する人もいるかもしれない。

◆ ℓ.3 **However** 「しかし: 逆接」

(主張) すべてのお茶は同じ植物から作られている。

・色や味の違いを生み出すものは?

◆ ℓ.5 **in fact** 「実際には: 主張」

お茶の育て方と収穫後の処理の仕方の違いから、差が生まれる。

背景知識

●将軍様のお茶

緑茶と日本文化には密接な関係がある。幕末に歌われた狂歌「太平の眠りをさます上喜撰(蒸気船) たった四杯(四艘)で夜も眠れず」は、「上喜撰」という銘柄の上等なお茶と「蒸気船」をかけているが、これはその当時庶民の間にも喫茶の習慣が浸透していたことを表すと言ってよい。もちろん、時の権力者もお茶に魅了されていた。「すいすいすっころばし」という童謡に茶壺が出てくるが、当時横行していた「お茶壺道中」が庶民にとって迷惑だった様子を歌ったものだとも言われる。

大阪夏の陣(1615年: 第二代将軍徳川秀忠の頃)での徳川方の勝利を祝って宇治の新茶が幕府に献上されて以来、宇治茶は将軍家御用達となった。その新茶を将軍に献上するため、京都から江戸への道中では新茶をおさめた茶壺(お茶壺様)をかごに載せた行列が通った。それを「お茶壺道中」と呼ぶ。この時、沿道の庶民は道をあけて土下座しなければならなかったともされる。「すいすいすっころばし」の有名なくだりは、茶壺を運ぶ武士たちに威圧されることを嫌った庶民が、茶壺が近くを通る際、家にこもってやり過ぎと戸を「ピンシャン」と音を立てて閉めるさまが歌われているという。「お茶壺道中」は二代目の秀忠の時代から幕末まで、200年以上も続いた。

【深めたい人に】: 橋本実『お茶の謎を探る』(悠飛社、2002年)、角山栄『茶の世界史 — 緑茶の文化と紅茶の社会』(中央公論社、1980年)